高齢者宅の除雪早く

新潟県の日本共産党上越市議団は8日、市が大雪災害対策本部を設置したことをうけて、山間豪雪地の中ノ俣地区を現地調査しました。橋爪法一、樋口良子、平良木哲也の3市議が参加しました。

豪雪地では、道路除雪やお年寄り世帯の除雪、雪崩が心配されるために行ったもの。同地区は冬期間集落へ通じる道路が1本しかなくなるうえ、高齢化率が年々高くなっていて1人暮らしの世帯が何軒もあるため、除雪と雪崩対策が不可欠です。

集落へ向かう県道沿いは2㍍以上の積雪になっており、積もった雪が雪崩防止柵を飛び越えようとしている個所が何カ所もありました。特に気温が上昇したことで、斜面のあちこちで雪庇（せっぴ）が飛び出し、時々雪が転がり落ちてきてとても危険な状態でした。

屋根の雪下ろしをする高齢者＝8日、上越市

道路点検、警報伝達強化も

集落に入ると、何軒もの家で高齢者がスコップやスノーダンプで除雪していました。玄関に入るには、玄関前に積もった雪を乗り越えて雪の階段を3、4㍍も下っていかなければならない家が多くありました。中には、屋根の雪下ろしをしている高齢者もいました。

雪崩の危険個所を調査する平良木市議＝8日、上越市

もくもくと除雪をしていた高齢の女性に聞くと、この冬の雪で一番きびしかったのは12月半ばの大雪だったそうで、除雪が間に合わず、ガラスを2枚割ってしまい、今回の大雪も除雪に数日かかると話しました。

集落では、ちょうど食品、日用品販売の車がきていて、つえをついて腰を曲げて買い物にくるお年寄りの姿を見かけました。

改めてお年寄りが豪雪地で暮らす大変さを実感するとともに、雪深い山間豪雪地にきて販売活動してくれる業者に感心しました。

市議団では、現地調査したことをもとに、道路パトロールや警報伝達の強化、雪庇落としなどで、市や県に対策を申し入れることを検討しています。

上野公悦市議は、所用で参加できませんでした。

除雪中のお年寄りから話を聞く樋口市議＝8日